

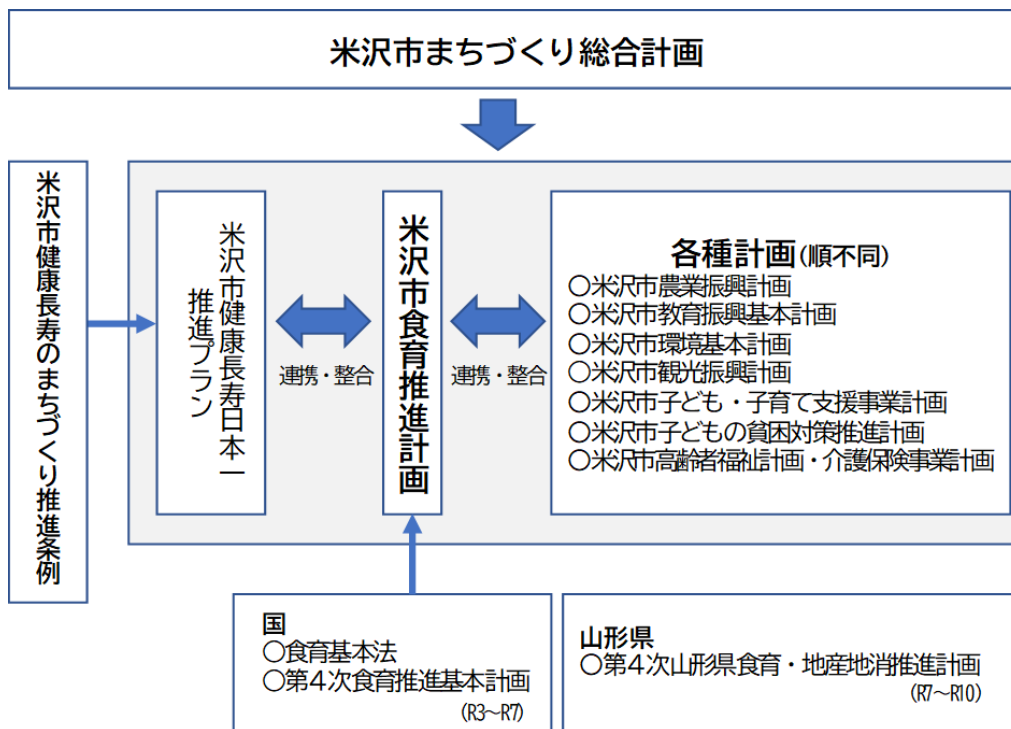
【概要版】第4次米沢市食育推進計画

1 計画策定の趣旨

現在の「食」を取り巻く環境は、大きく変化し複雑化しています。人口減少や核家族化、高齢者の単独世帯の増加といった家庭をとりまく環境の変化は、孤食や欠食の増加につながり、栄養バランスの偏りや生活習慣病を引き起こす要因となります。また、豪雨や猛暑による大規模な不作による、食料需要ひっ迫への懸念の高まり、不安定な国際情勢や円安等による物価高騰が食料価格に影響を与え、食卓を圧迫しています。さらには、地元スーパーの閉店等による買い物困難者の増加も懸念されます。

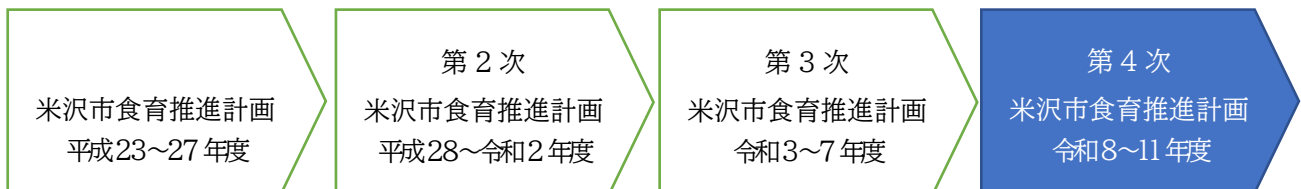
「第4次米沢市食育推進計画」の策定にあたっては、食を取り巻く現状やこれまでの取組の評価と課題を踏まえ、さらに、環境に配慮した食生活や食の選択など「環境」の視点をより重視して策定することにより、市民一人ひとりが豊かで充実した生活を実現できる食育の推進を目指します。

2 計画の位置づけ



3 計画期間

令和8年度(2026年度)から令和11年度(2029年度)までの4年間※



※「米沢市食育推進計画」と「米沢市健康長寿日本一プラン」は、いずれも「栄養・食生活」を通じた生活習慣病の予防・改善や「歯と口腔の健康」を目的とした取り組みなど計画の方向性が共通していることから、「米沢市健康長寿日本一推進プラン」の中間見直しに合わせて、将来的に統合する予定です。

4 第3次米沢市食育推進計画の現状と課題及び考察

「食」を取り巻く現状や生活環境に関する統計データ、令和6年9月に実施した食育に関する市民アンケート調査及び第3次計画の目標と実績等を基に、食育全体と基本施策ごとの現状と課題をまとめ、第4次計画の策定に向け以下のとおり考察しました。

[食育全体について]

- ・計画全体の根幹となる「食育に関心を持っている人」の割合は、第3次計画策定時と同水準で推移したが、目標達成には至らなかった。
- ・より多くの市民が食育に関心を持ち、主体的に取り組めるような施策を展開する必要がある。

[基本施策1 健康寿命の延伸につながる食育の推進]

- ・「朝食を毎日食べる人の割合」は目標値に及ばず、第3次計画策定時と比較してほぼ同水準で推移。
- ・肥満や若い女性のやせ、高齢者の低栄養といった課題があり、ライフステージに応じた適切な食生活の実践が必要。
- ・健康長寿につながる食育を推進し、全世代で望ましい食習慣を身に付けることが重要。

[基本施策2:豊かな心と感謝の心を育む食育の推進]

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、生活行動や働き方に大きな変化が生じる中で、友人や身近な人々と食事を楽しむことの喜びやその価値を再認識する機会となった。
- ・家庭、学校、地域は食育の重要な実践の場であることから、それぞれの特性を生かし、食が自然の恵みや生産者等に支えられていることへの理解を深める食育を推進する必要がある。

[基本施策3 食を守り、次世代へつなぐ食育の推進]

- ・食品ロス問題や環境問題が懸念される中、環境負荷を低減し、持続可能な社会の実現を目指す必要がある。
- ・近年では、豪雨や猛暑による大規模な不作など、食料需給ひっ迫が深刻化しており、環境負荷に配慮した食育活動の重要性が高まっている。
- ・本市の豊かな資源から生み出される地場産物や郷土料理について、家庭や学校など様々なつながりの中で学ぶことが大切。

5 基本理念

市民一人ひとりが主体的に自らの健康について考え、食の大切さを学び、健やかで豊かな心と体を育むために、家庭・学校・地域がそれぞれの特性を活かした食育を推進し、健康長寿日本一を目指します。

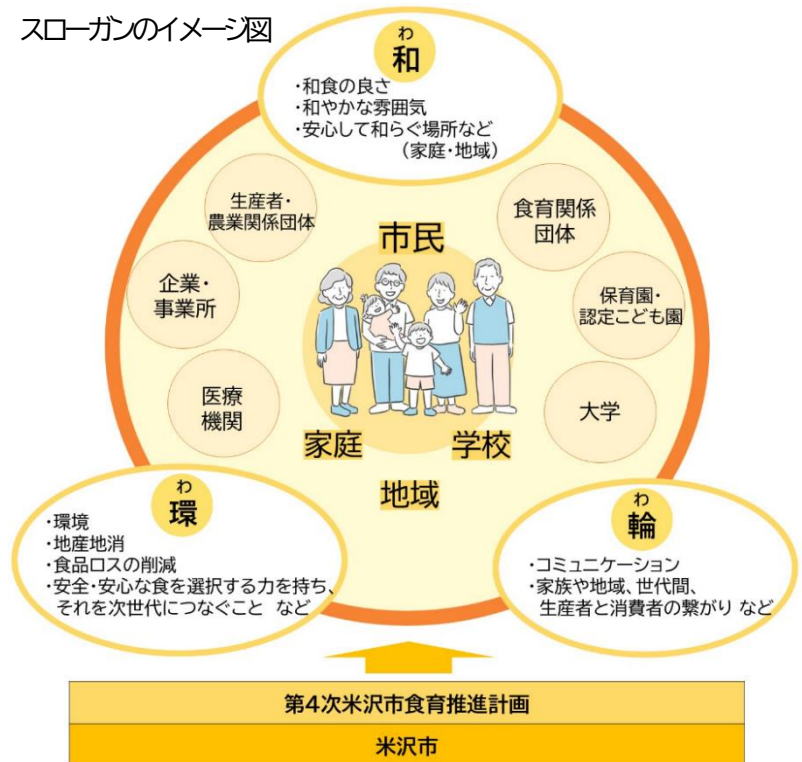
6 スローガン

なせば成る 広げてつなぐ
 わ
 食育の「和×輪×環」

本計画では、第3次計画における「和」や「輪」の考え方を引継ぎつつ、近年特に環境負荷に配慮した食育活動の重要性が高まっていることを踏まえ、環境や循環を意味する「環」を新たに加えました。この3つの「わ」を組み合わせ、「和×輪×環」と表現しました。

さらに、このスローガンは、上杉鷹山公の「なせば成る」の精神を礎に、一人ひとりの食育活動をさらに広げ、様々な食育を支える人との関わりや世代を超えたつながりを深めていくことを目指しています。それぞれの「わ」が相互に作用し、掛け合わせることで生み出される相乗効果によって、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進します。

スローガンのイメージ図



7 計画の体系

本計画では、第3次食育推進計画の考察を踏まえ、3つの基本施策と7つの取組の方向性により施策を展開します。

基本 施策	取組の 方向性	主な取組	
		目指す姿	
1 健康長寿につながる 食育の推進	1-1 健康な身体づくりの推進	望ましい食生活の推進	・栄養バランスのとれた食事や規則正しい食生活が実践できる。
		生活習慣病予防の推進	・食塩や野菜の適切な摂取、適正体重の維持を中心に、生活習慣病の予防ができる。
	1-2 歯と口腔の健康づくりの推進	健康な歯と口腔機能維持の推進	・8020達成を目指し、健康な歯と口腔機能を維持し、よく噛んで食べることができる。
2 豊かな心と感謝の心を育み、 次世代へつなぐ食育の推進	2-1 食文化の継承	伝統食材を用いた伝統食や行事食の継承	・伝統食や行事食などの食文化を理解し、生活の中に取り入れることができる。
		和食文化の継承	・和食文化への理解を深め、生活の中で実践し、感謝の心を持ちながら継承できる。
	2-2 食を通じた交流や学びの推進	共食やコミュニティにおける交流の推進	・共食や食に関する人と人との交流を通じて、食を楽しむ心を育み、学びや気づきを生活の中で実践する。
		食農体験の推進	・食に関する学習機会や体験活動を通じて、食が自然の恵みや生産者をはじめとする様々な人に支えられていることへの感謝の心を持つことができる。
3 環境や循環を意識し、 食を守る食育の推進	3-1 地産地消の推進	地場産物の積極的活用と情報発信	・地場産物について知り、積極的に活用できる。
	3-2 環境を考えた食生活の推進	環境にやさしい食の選択の推進	・食品ロスの削減方法や有機農業・環境保全型農業について知り、選択できる。
	3-3 安全・安心な食育の推進	食の安全・安心に関する情報提供の推進	・食品の安全性や災害時の食事に関する基礎的な知識を身に付け、実践する。

8 数値目標

第4次米沢市食育推進計画に掲げる基本施策を推進するため、数値目標を設定し、施策の達成状況や成果を図る指標とします。

指標		現状値 (R6年度)	目標値 (R11年度)	基本施策 の取組	
1	食育に関心を持っている人の割合 ^{※1}	79.5%	90%以上	1・2・3	
2	朝食を毎日食べる人の割合	小学6年生 ^{※2}	93.7%	100%	1
		中学3年生 ^{※2}	95.7%	100%	1
		20歳以上 ^{※1}	77.6%	85%以上	1
3	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合 ^{※1}	49.8%	70%以上	1	
4	適正体重者の割合 新規	適正体重を維持している者の割合 ^{※3}	20~60歳代 65.7%(R4) 70歳以上 60.6%(R4)	66%以上	1
		肥満傾向児(肥満度20%以上)の割合(10歳・小5) ^{※4}	16.2%	11%以下	
		適正体重がBMI18.5未満者の割合(20-30代の女性) ^{※3}	13.4%(R4)	12%未満	
		適正体重がBMI20以下の高齢者の割合(65歳以上) ^{※3}	15.2%(R4)	13%未満	
5	食塩摂取量の減少(推定一日食塩摂取量) ^{※5} 新規	9.6g	7g未満	1	
6	定期的に歯科受診をしている人の割合 ^{※3} 新規 (19歳以上)	39.1%(R4)	50%以上	1	
7	学校給食における郷土料理の提供回数 ^{※6} (1校あたり)	6.1回	6回以上	2	
8	食農教育活動事業数 ^{※7}	22回(R5)	25回以上	2	
9	学校給食における米沢産野菜の使用割合 新規 (金額ベース) ^{※6}	18%	20%以上	3	
10	食の安全に関する知識を持っている人の割合 ^{※1}	59.0%	80%以上	3	
11	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している人の割合 ^{※1}	48.7%	70%以上	3	
12	米沢産の農産物を意識して食べている人の割合 ^{※1}	52.1%	70%以上	3	
13	食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合 ^{※1}	82.2%	85%以上	3	

※1 食育に関する市民アンケート調査(市調査)

※2 全国学力・学習状況調査(国調査)

※3 健康に関する意識・生活アンケート調査(市調査)

※4 米沢市学校保健の実態と今後の課題(市調査)

※5 米沢市特定健診及びはつらつ健診での推定一日食塩摂取量測定結果(市調査)

※6 米沢市教育委員会調査(市調査)

「9 学校給食における米沢産野菜の使用割合」は金額・重量による調査を行い、目標値としては金額ベースを用いる。

※7 食農教育事業の実施状況調査(県調査)

9 推進体制と進行管理

市民や関連する団体、関係機関等で構成する「米沢市食育推進協議会」を設置し、本市関係各課が連携・協働しながら計画を推進します。